

論文審査の結果の要旨

氏名：林 尚 示

博士の専攻分野の名称：博士（教育学）

論文題名：生徒指導の機能を融合した「特別活動教育」の構築

審査委員：（主査） 教授 小笠原 喜 康

（副査） 教授 小 野 雅 章 教授 佐 藤 晴 雄

関西外国語大学教授 山 口 満

本論文は、これまで教育の中心とはみなされてこなかった特別活動を、機能論的にとらえることで、生徒指導の機能をも融合した教育課程の中心に位置付けようとする試みである。

特別活動を教育実践としてみた場合、児童生徒の社会的資質の育成に与える生徒指導上の影響は甚大である。日本の教育課程では、特別活動は各教科と並ぶものとされている。しかし、生徒指導の機能との関係を考慮すると、特別活動を単なる領域とは考えず、より広義に、統合概念でとらえる時期に来ていると本論文では指摘する。統合概念とは、各教科や教科外の領域を統合するものであり、また、生徒指導の機能と教育課程を統合するものである。そのため本論文においては、生徒指導を融合した「特別活動教育」としての機能構築を図り、教育課程上の中心課程として位置づけを教育学的に明らかにしようとしている。

本論文においては、教育方法学の視点から歴史研究と調査研究を通してこの主題にせまっている。それは、教育課程を維持存続させるものとして、これまで潜在的機能として作用してきたものを、教育の歴史から掘り起こして、「特別活動教育」として顕在化させる挑戦と考えられる。「特別活動教育」が顕在的機能として解釈可能となれば、これまで見過ごされてきた、教育課程システムの構造形成を図る上できわめて重要な理論をわれわれは手にすることができる。

本論文は、こうしたように特別活動を機能論的にとらえて、生徒指導も含む統合的な概念とすることを提案している。日本の学校は、教科によって分断された認識を特別活動によって実践的に統合することで、バランスを保っているところがある。こうしたことからすると、本論文の提案の価値は、これからの教育の姿を問い直す新しい理論であると評価できる。

以上により、本研究は、博士（教育学）の学位を授与するに価すると認められる。

以 上

平成27年5月21日